



令和3年度 ころろ 事業報告

1、職員異動状況

入職	看護師	正職	1名
		パート	1名
	ケアワーカー	嘱託	1名
		パート	1名
	理学療法士	パート	1名
	運転手	パート	1名
退職	ケアワーカー	正職	2名
	ケアワーカー	パート	2名
復職	ケアワーカー	正職	1名
育児休業中	ケアワーカー	正職	1名

1 「優しい人」の育成と定着

個人やころろだけで「優しい」という言葉を解釈するのではなく、私たちは下記のように優しさを具体化する為の実践を今年度の目標としました。

(利用者を知るために)

- ・利用者を知り、具体的な介護の視点について共有する。

利用者本人が分かるもの・その方の家族やその他の関係性が分かるもの・生活する地域が分かるものとして個別に「ちいさがた らいふサポートシート」として情報をまとめました。昨年度からその必要について検討されてきましたが、今年度主任・副主任を中心にシートが形となりました。その視点や事務作業の効率化等はまだまだ改善の余地はありますが、個々を尊重する・人にやさしくという価値が共有できました。アセスメントの本来の目的である心身の状態や日常生活の状況、生活歴といった情報を収集（知る）事とそれを基にした介護内容の統一により、情報の量が増え、個人のイメージが具体化された事・事故／苦情対応の際に説得力をもってご本人・家族に説明ができる事等が成果としてあげられました。一方、その先のその情報を基に、利用者個々の希望を介護職がどうくみとり、実現の支援をするのかまでが、当シートの目的でもありますが、そこまでの理解は不十分でした。事務負担を軽減する為、書式のフォーマットも改良しています。医療職やリハビリ職とも連携し、最も入居者個々と接する事の多い介護職が、その方の事を全人的に理解できるよう手段の目的化ではなく、あくまで目的に達するための手段（ツール）として改善していきたいと考えます。

(人財の育成と定着)

- ・管理職層に対し、徹底した確認・徹底・再確認を行い、物事を曖昧にしておかない事をはじめ長きにわたり、ころろ職員に接して下さった小林アドバイザーが今期中途にて契約終了と



なり、そのまとめを行って頂きました。令和3年度の新卒者である佐藤結斗CWについても、こ

こまで勤務を継続できた事を評価頂き、教える側の視点・工夫についても伝えて頂きました。又、主任・副主任を原動力として、目標や課題の共有を常に図るようアドバイス頂きました。労働人口が減少する中で、多様な背景をもった方が入職されます。その方々を育成し、運営を管理していく上では、個別支援の視点が欠かせません。

・外国人技能実習制度

当期において、東亜介護福祉事業組合と連携し、フィリピン国より2名の女性を介護 技能実習生として受入れを行う事が決定していますが、このコロナ禍の中で受入れが停止していました。オンライン等で面談も実施しましたが、その後入国の見通しが不明瞭となり、一時中断しておりました。その間に「らいふサポートシート」「マニュアル」等、資料が準備できました。令和4年6月15日より実習が開始される事が決定しています。

2 介護老人福祉施設こころの多機能化へ向けて、稼働の維持・向上を堅守します。

入居に関しては下半期を目途に、相談支援職が在宅支援センター長からの情報等、利用を希望される方々の情報に対して速やかに対応する等、改善がみられ稼働率へ反映している結果となっています。

今年度はじめて実施した共生型短期入所生活介護については、1名の方が定期ご利用頂きました。担当者を中心に丁寧に対応頂き、懸念されたご本人への影響・周囲の高齢者の方への影響ご家族の要望やクレーム、感染症対策等 大きなトラブルなく初年度を終える事ができました。数字以上に東御市をはじめとした行政・関係機関が当法人へ希望したショート事業の継続という要請へ応えた事が今後の信用拡大へとつながる事を期待します。

3 デイサービスセンターこころについて

新規に利用される方の半数は個別機能訓練を希望されており、1名の理学療法士による施術・パワーリハビリをメインとしてそれに応えています。

理学療法士を継続して配置する事のメリットを、外部に十分に伝えきれなかった事が稼働の低迷にもつながりました。医療機関からご紹介頂いた利用者から、「とても良かった」と評価を頂く事もありました。その良さを、こころから発信する事が不十分であったと思います。

こころデイサービスは理学療法士の配置・パワーリハビリ機器の設置・ウォーターベッドの設置等 十分な人材・機器が整備されています。デイサービスに対する社会的ニーズが従前に比べ変化している中で、対策をとる事が必要となっています。

4 感染症や災害への対応に強い施設とします。

法人内において入居（施設内）にコロナを発生させないという強い目的意識の元、予防対策が徹底されています。セントラルクリニックにご協力頂き、入所時を原則として随時PCR検査（利



用者：120名 職員26名 合計146名)を実施・長野県から事業所ごとに配布された抗原検査キットを活用し、(利用者：34名 職員関係78名 合計112名)等 検査を速やかに行う事ができました。それに伴い、職員の感染症に対する意識も、細やかな報告等から一般よりも高い水準で維持できているものと思われます。さらに、早い段階で利用者・職員の方々にワクチン接種を行って頂き、ほぼ全員の3回目接種ができております。検査・ワクチン接種ともに利用者・家族の方々・職員の方々にはご理解頂き、セントラルクリニック・行政との連携の元1回あたり150人以上の規模のワクチン接種を組織的に円滑に実施ができました。

コロナウィルス感染症が社会に出現して2年目となりました。面会制限等、利用者及び家族の方へ生活の制限をする事が日常となっていました。医療職より、そうした生活の質までを考慮した制限の一部緩和等が提案され短期間ですが設定する事ができました。厳しい感染対策をとったが故に、こころという大きな施設において利用者への感染が防ぐことができましたが、今後は生活を支援する介護職からも、感染管理と生活の質の維持という問題を提起し、工夫していかねばならないと実感した年度となりました。

災害については、デイサービス・ショートステイサービスといった在宅支援サービスを利用されている方々に、台風等が予測される前に、ショートステイの利用をすすめたり、台風当日は安否確認のご連絡をさせて頂きました。敬老会においては、一人ひとりの命をまもるとして個人情報(連絡先 既往歴 内服薬等)を持ち出す事のできるものを用意しました。